

平成17年度山下記念研究賞

山下記念研究賞は、これまでは研究賞として本学会の研究会および研究会主催シンポジウムにおける研究発表のうちから特に優秀な論文を選び、その発表者に贈られていたものですが、故山下英男先生のご遺族から学会にご寄贈いただいた資金を活用するため、平成6年度から研究賞を充実させ、山下記念研究賞としたものです。受賞者は該当論文の登壇発表者である本学会の会員で、年齢制限はありません。本賞の選考は、表彰規程、山下記念研究賞受賞候補者選定手続および山下記念研究賞推薦内規に基づき、各領域委員会が選定委員会となって行います。本年度は表彰対象の19研究会の主査から推薦された計28編の優れた論文に対し、慎重な審議を行い、決定されたうえで、第510回理事会（平成17年7月）および調査研究運営委員会に報告されたものです。本年度の受賞者は下記28君で、それぞれ研究発表会、またはシンポジウムにおいて表彰状、賞牌、賞金が授与されます。

[\[コンピュータサイエンス領域\]](#)[\[情報環境領域\]](#)[\[フロンティア領域\]](#)

[コンピュータサイエンス領域]

●Javaアプリケーションの要求仕様とセキュリティポリシーのトレードオフ分析

[2003-SE-142 (2003. 5.30)] (ソフトウェア工学研究会)



海谷 治彦 君 (正会員)

1994年 東京工業大学 博士課程修了。博士(工学)。
現在、信州大学 工学部 情報工学科 助教授。
<http://www.cs.shinshu-u.ac.jp/~kaiya/>

[推薦理由]

本論文は、ソフトウェアの実行環境に規定されたセキュリティポリシーとその制約下で実現されるアプリケーションの要求仕様との衝突や曖昧性をゴール分析の方法を拡張して分析する方法を提案している。情報社会化の安全性を確保する点からソフトウェアのセキュリティに関する要求を満たすことは重要な課題となっている。しかし、セキュリティと機能要求との衝突の検出と解消は困難な課題である。本研究は、この課題に対して、ゴール分析の方法を拡張して、体系的な方法を提案した点で優れた研究であるといえる。今後のソフトウェア工学の発展への貢献が期待されることから、山下記念研究賞に相応しい論文として推薦する。